

## vol.8 5番目の音と、トニックとルートの意味の違い

どうも、大沼です。

vol.7、7.5 と、二回に渡って『3rd』について学んできましたね。

『3rd』には、『M3rd(メジャーサード)』と『m3rd(マイナーサード)』の二種類がある、と言う事でした。

新しいことをやったので、ちょっと間を置きましたが、  
どうでしょう？2つの3rdの位置、覚えられましたか？

ルート(もしくはトニック)に対して、指板上で、  
どこにどの音があるのかを把握していることは超重要です。

これがわかっていないと、コード構成の仕組みも理解できないし、  
音楽的にしっかりしたフレーズが弾けません(作れません)。

世界で名ギタリストと呼ばれている人達は、まず間違いなく全員が、  
今やっているようなことの、(最低でも)基礎的な部分は把握しています。

いつかツイッターで、僕はこんなことをつぶやきました。

”プロのミュージシャンやアーティストがインタビューとかで時々言う、  
『私は〇〇が出来ない(譜面が読めないとか)』は、信用してはいけない。  
それは、『自分の納得する水準に達してない』と本人は思っているだけで、  
普通の人10倍はできると思ったほうが良い。”

これ、結構リツイートされたんですが、  
『わかります』と反応をくれたのは、  
やっぱりプロの人(もしくはプロに近い人)が多かったです。

やっぱり皆さん、実感があるんでしょう。

名ギタリストの人達は「単に人よりギターが上手いだけのギターバカ」では  
無いんですよ。

ちゃんと音楽家として、一般の人より、遥かに高い水準にいます。  
(稀に例外もいるかもしれませんが)

ちゃんと学び続けて、いつか自分自身がそういった領域に近づいた時、そのことを実感します。

今はまだ、半信半疑かもしれませんが、そうなってから、音楽の本当に面白いところが分かってきます。

なぜなら、上のレベルの人たちが何を考えているのかが、自分にもだんだん理解できるようになってくるから。

例えばプロや、アマチュアでも上手い人達のライブで、アドリブとか、まあ、やっていることは何でも良いんですが、誰かがカッコいいプレイをすると、演奏者同士で顔を見合わせて「ニヤリ」みたいなシーンに遭遇することがあります。

これは、高レベルのプレイヤー同士で、『そのプレイ cool じゃん！』と言う感覚を共有できているから起こるんです。

でも、自分自身のプレイヤーとしてのレベルや、音楽的感性が低い場合、何が cool ののかがわかりませんよね。(気が付かないとも言える)

この講座は、音楽家に必要なものを身につけていき、それが分かるようになるための講座です。

しっかり学び続けていって、あなたがそういったレベルに足を踏み入れた時、今まで死ぬほど聴いたと思っていた曲でも、まったくの別物に聴こえてくる時がきます。

そうなったら、リスニング(音楽を聴くこと)自体がものすごい快感になってくるのです。

アレも素晴らしい、コレも素晴らしい、と。

この快感を、文章で表現できないところが、とても歯がゆいのですが、やっていったらわかります。

あなたが学んだことが、どこかで使われていないか、積極的に探してください。

前にも言いましたが、受身でいる限り、成長はありません。

好きな曲、弾きたいと思った曲、どんどん弾いてくださいね。

別に最初は上手くいなくても良いんです。

というか、初めて弾く曲を一発で上手く弾けるならば、その人はプロレベルじゃないですか。

今は出来なくても、繰り返し練習していれば、気が付いたら出来るようになってますから。

それでは、前置きが長くなりましたが、Vol.8 やっていきましょうか。

繰り返しになりますが、vol.7 と vol.7.5 では、2つの3rdの位置を覚えましたね。

今回は、vol7.5で行ったトレーニングフレーズを使って、もう1つ、音の名前と位置を把握します。

把握すべき音は、P5th(パーフェクトフィフス)と呼ばれる音。

なぜ、P5thと呼ぶのかについては今後やっていくので、今は深く考えなくてもOKです。

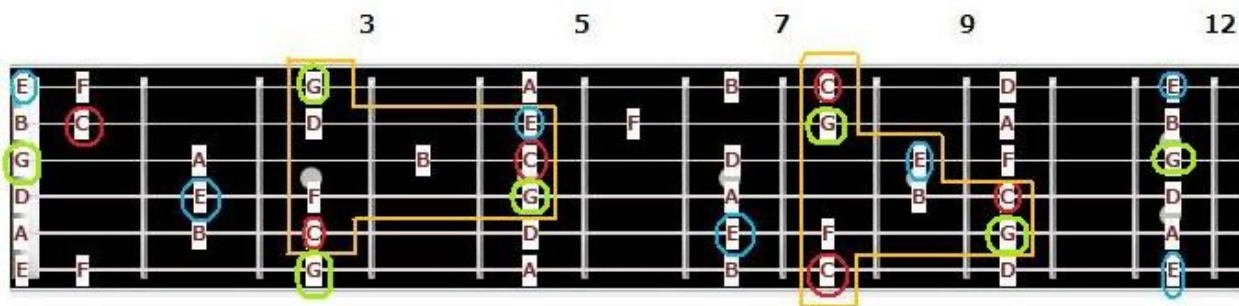
ルート(トニック)の位置から見て、  
『ここにP5thがあるんだ』ということ把握してください。

譜例自体は前回とまったく同じなので、弾くのには苦労しないでしょう。

まずはM3rdの時の指板図を見てください。

緑の四角で囲った場所がP5thにあたる音です。

今回はC(ド)音を基準に見ているので、P5thはG(ソ)音になります。



前回は3rdの把握の為に譜例を練習しましたが、  
今回はP5thを把握することを意識して練習します。

さて、前回、「トニック(1th)と3rdの間には、ちゃんと2ndがある」と言うようなことをお話しましたが、当然、3rdと5thの間には4thがあります。

これも細かい理屈は後々解説しますので、なんとなく把握しておいてください。

では、前回と同じものですが、譜例は以下です。

S-Gt *mf*

1 2 3

4 5 6

7 8 9

10 11

TAB

8 7 10 7 8

8 12 10 12 8

3 2 5 2 3

3 7 5 7 3

10 9 12 9 10

10 14 12 14 10

5 5 8 5 5

5 9 8 9 5

13 12 15 12 13

13 17 15 17 13

次に、これと同じ事を m3rd の譜例でも行います。

3 5 7 9 12

メジャー、マイナーで、場所が半音変わる 3rd と違って、  
P5th はトニック(ルート)から見て、いつも同じ場所にあります。

「じゃあ練習しなくてもいいんじゃない」と思うかも知れませんが、P5thの場所は同じでも、3rdがメジャーの時とマイナーの時では左手のフィンガリングが違うので、きちんと練習を行いましょう。

こちら、P5thの位置を把握する、と言う意識で練習します。

S-Gt

mf

TAB

8 6 10 6 8 8 11 10 11 8 3 1 5 1 3

中人小人中 人小葉小人

TAB

3 6 5 6 3 10 8 12 8 10 10 13 12 13 10

TAB

5 4 8 4 5 5 4 3 4 5 5 8 8 8 5

中人小人中 葉中人中葉 人小小(葉)小人

TAB

13 11 15 11 13 13 16 15 16 13

M3rd、m3rdのどちらの練習でも、譜例に出てくるP5thの音とオクターブ上下の関係にあるP5thの位置も覚えておきましょう。

譜例では、トニックの右斜め下(高音弦側)のP5thのみを弾いていますが、オクターブ低いP5thとして、トニックの真上(低音弦側)にもあります。(2~3弦間は左斜め上)

指板図を見てそこも確認しておいてください。

さて、以前の回でも簡単に解説しましたが、これまで何気なく使ってきた、『ルート』と『トニック』の意味を再確認しておきましょう。

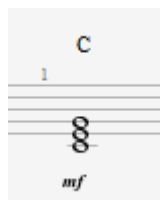
まず『ルート』ですが、これは、コードについて考えている時の”基準(根音)となる音”の事を指します。

「ルート(root)」＝根、根本、根っこ

と意味するように、

コードを構成する時、基本的に(事実上)一番低い、そのコードの土台とする音の事を『ルート』または『ルート音(根音)』と呼びます。

そのルート音の上に、だんだんと音が乗っかっていくワケです。



←Cコード

ルート音Cの上に、音が積み重なっている。(乗っかっている)

なので、Cのコードならルート音はC、  
B♭のコードならルート音はB♭  
Amのコードならルート音はA  
F#mのコードならルート音はF#

と、こういうことですね。

次に『トニック』について。

こちらはスケール(やkey)の観点から見たとき、そのスケールの基準となる(基準に設定する)、第1音目の音のコトです。

『トニック』の訳は『主音(しゅおん)』でしたね。

要するに、そのスケールの『主』となる音の事を、『トニック』と呼ぶのです。

※keyについて考える時の『トニック』についてはまた後ほど。

Cメジャーペンタトニックスケールだったら、  
C音が主音なので、トニックはC音。

Aマイナースケールならば、  
A音が主音なので、トニックはA音。

と単純にこういうことです。

で、今回の譜例の解説では、” トニック(ルート)の位置から見て～”  
と、ややこしい解説の仕方をしてはいますが、コレにはワケがあります。

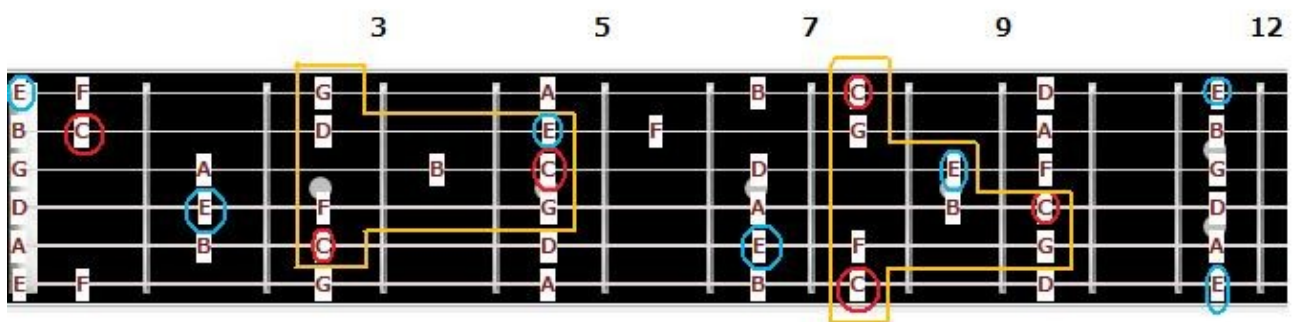
前回、今回と、3rdと5thの音の把握を行いました。

これを考える時、例に出した指板図の上で、

黄色の枠で囲った、Cコード的な観点から見るならば、C音は『ルート音』。

C音を主音(トニック)とした、C音スタートのスケール的な観点から見るならば、  
C音は『トニック』。

※指板図に出ている音、” CDEFGAB”は「Cメジャースケール」の構成音。  
これも今後詳しくやっていきます。



なので、” トニック(ルート)の位置から見て～” などと言った、  
コードとスケールの、どちらの観点からも見ることの出来る説明の仕方をしてはいます。

これは、練習をするときはどちらで考えても良いです。

ただ、『ルート』と『トニック』の、  
意味と使い分け方は覚えておいてくださいね。



それでは、今回は以上になります。

ちょっとややこしい話しをしたので、実戦譜例はありません。

ルートとトニックの違いは、大事な概念なので、  
繰り返し読んでしっかり理解しておきましょう。

ありがとうございました。

大沼